

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 28 年 6 月 12 日	
所属部局・職	霊長類研究所・修士課程 2 年
氏名	武 真祈子

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
ブラジル、サンパウロ
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
ブラジル留学生の会 2016
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 28 年 6 月 10 日 ~ 平成 27 年 6 月 11 日 (2 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
鈴木裕之氏 (日立南米社)
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果 : 長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
<参加の背景> 現在、ブラジル全土にはおよそ 70 人の日本人留学生がいる。本会は、日立南米社・鈴木氏の立案のもと、学生が主体となって開催された。「せっかく遠くブラジルで生活をする機会を得ても、大学周辺だけの勉強や旅行だけで帰国しては機会損失ではないか」という考えから、ブラジルへの留学体験を最大限に活かし、今後の進路について考えるきっかけを作ろうというのが交流会の目的である。昨年 11 月に引き続き、2 回目の開催であった。 報告者はブラジルに長期滞在しているが、他の日本人学生や日本企業と関わる機会はほとんどない。同時期にブラジルに滞在している日本人コミュニティーと関わることは、今後のブラジル滞在やその後の将来のために、また報告者が参画しているフィールドミュージアム構想のためにも大変有意義であると判断し、遠隔地サンパウロではあるがぜひ参加したいと考えた。
<内容> イベントは、6/11(土)、午前中に講師(16 名)による 10 分間ずつの講話、午後は懇談会という流れで行われた。参加した学生は 40 人ほどで、主にサンパウロとその周辺都市から集まっていた。報告者は赤道直下・マナウスからの参加ということで、最北からの参加者であった。 講師の方々は、大和証券、味の素、日本航空などの企業で働いている方だけでなく、国土交通省、ブラジルで企業した方、農場を運営する方など、非常に多様であった。講話の内容は、業務内容よりも、なぜその職を選んだのか、どのような意識で仕事に臨んでいるかといった、人生観に近いお話も多かった。
集まった学生からもたくさんの質問が飛んだ。中には、役人(国土交通省)と企業人が席を並べている、本会のめずらしい状況を指摘し、「お互いどう思っているのか?」といった、つつこんだ質問もあった。講師の方との距離が近く、ざっくばらんにお話ができるという点で、日本ではなかなか得られない貴重な機会であった。
<感想と成果>

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

両親が自営業だったこともあり、報告者にとって企業ではたらくというのは全くの未知の世界である。そのため、勝手ながら、「歯車の一つになる」という、受動的、制限的なイメージを持っていた。だがそれは間違っていた。実際にお話をお聞きして、企業に勤める方々の価値観と、研究者の世界の価値観に、大きな隔たりはないということがわかった。多くの方がおっしゃっていた共通のメッセージは、「やりたいことをやる」、そのために、「自分の中に価値基準をもつ」ということだった。また、ブラジルは何をやるにも自己責任の国であるため、自分の価値基準を確立するには最適の環境である、という話もあった。報告者は自分に自信がなく誰かの基準でものごと判断してしまうことがある。ブラジルに在る間に、周囲のブラジル人に学びたいと思った。

また、参加した学生の大半は語学留学生であるなか、報告者はアマゾンでのサル研究という特殊な背景を持っていた。そのため、鈴木氏のはからいで、報告者自身も壇上で簡単な自己紹介をさせていただいた。そのおかげで、フィールドミュージアムプロジェクトについて、参加者全員にアピールすることができた。また、のちの懇親会では、多くの学生や講師の方が興味を持って話しかけてくださった。自分とは違った形でブラジルに関わっている多くの日本人とメールアドレスや SNS の交換をすることができた。後日、マナウス旅行の予定がある学生から連絡が来たり、講師の一人だった栗農家さんの農場を見学させてもらえることになったりと、今後につながる人脈を形成することができた。プロジェクトの宣伝だけでなく、職業線択のヒント、人とのつながりなど、得るもの多い出張となった。



集合写真（提供：ブラジル留学生の会）

6. その他（特記事項など）

今回の派遣を許可してくださった松沢哲郎先生、および PWS 支援室の皆様へ深く感謝申し上げます。ありがとうございました。